

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1094名

令和7年10月1日号



子供たちがわくわくするような授業をおこなう

校長 こじま たかし 小島 孝之

6月号でもふれましたが、本校は、「生活科」と「総合的な学習の時間」（以下、総合と書きます）という2つの教科を中心に、学校全体で組織的な研究を進めています。

今年で研究4年目となりますが、11月19日（水）には市内外の先生を対象に、研究発表会を実施する予定です。研究の目的は、子供たちに確かな学力をつけるため、私たちがどのように指導をすればよいのか、そのことを学ぶための研究です。私たち六小の教職員は、変化の激しい予測困難なこの世の中を、子供たちが自分事として考え、他者と協力しながら主体的に生きぬいていくためにはどのような授業をすればよいのか、そのための研究を日々行っています。子供の視点に立つとするならば、「先生が一方的に知識を伝える授業ではなく、課題を自分で決めて、その課題を解決するためにどうすればいいのか真剣に考えていく」そんなわくわくするような授業をつくっているところです。

今月号は、3～6年生の総合的な学習の時間について、その取組の様子をお知らせいたします。

3年生の総合のテーマは「朝霞の魅力を知り、どのように伝えていくか」を中心課題として2クラスごとに学習を進めています。3年1組、3組は「朝霞ってすごい！魅力ギュッ！」と題して、まち探検に出かけて、市の魅力を知ったうえでスタンプラリーを作成して、魅力発信をしようとしています。2組、6組は「小さなカプセルに、大きな朝霞」と題して、まち探検後、朝霞のご当地ガチャづくりについて取り組んでいるところです。4組、5組は「朝かわくわく、めざせすごろくデザイナー」と題して、まち探検後、朝霞の魅力を知ってもらえるすごろくづくりをしています。

4年生は、「朝霞市の自然・環境」を中心課題としてクラスごとに学習を進めています。

1組は「再生紙からオリジナルグッズを作ろう」と題して、再生紙からどのような紙の作品に生まれ変わることができるのか研究をしています。2組は「世界に一つだけの黒目川図鑑」と題して、黒目川で確認することができる生き物や植物などの図鑑づくりに取り組んでいます。3組は「環境にやさしい紙づくり」と題して、不要な紙や、野菜くずから再生紙として生まれ変わらせて活用できるか研究をしています。4組は「見て・ふれて・学ぼう黒目川水族館 OPEN」と題して、黒目川に生息している魚などの水族館づくりを進めています。5組は「驚き！発見！草木で染めるあさか色」と題して、身の回りの自然物を生かした草木染めについて探求しています。

5年生は「防災」を中心課題として、学年全体で学習を進めています。「目指せ防災リーダー」と題して、埼玉県南西部消防局の方や、市防災アドバイザー、自衛隊の方々、市の危機管理室の方々をお招きして様々な視点から防災について学んできました。今後は、今までの学習を生かして一人ひとりが防災リーダーになって周りの人たちにどのように発信していけばよいのか、さらに学習を深めています。

6年生は、「地域活性」を中心課題として、クラスごとに学習しています。どのようにしたら地域活性ができるのだろうか、と考えていたところ、マルイ志木店様から「I♡朝霞フェス」という地域PRイベントで販売する商品の開発・販売を6年生の子供たちと、ともにできないかという話が舞い込み、マルイ様とともに取り組むこととなりました。コラボ店をご紹介しますと、1組は「マリオンクレープ様」2組は中華の「昇龍園様」3組は朝霞駅近くのフレンチ多国籍料理「ミソラ食堂様」4組は「おめで鯛焼き様」5組は「あさかベーカリー様、和菓子の青柳様、OIMO BIYORI 様」となっています。

紙面の関係で、内容まで詳しく載せることができないのですが、このような学習を六小では年間を通して継続的に行っています。どうですか、皆様、わくわくしませんか。教科書というものが存在しない総合的な学習の時間は、学習を子供たちと作り出すところから始めるので、教員にとっては非常に時間がかかるものですが、それを本校では積極的に取り組んでいます。誰のためか、それは子供たちの豊かな学びのためです。